

以上のように受託2場所によって、その効果は相反した結果が得られているので、施用量を5～10kg/aと幅広くとり、試験場所も増やして継続検討することとした。

〔付記〕 以上のほか、本検討会議では昭和47年度冬季に行なったアビオンーE200、OEDグリーンのチャの寒干害防止効果に関する試験結果も検討された。この成績ではアビオ

ン、OEDともに寒干害防止効果はある程度認められたが、47年度の冬は比較的暖冬のことであって、それほど明確ではなかった。

アビオンについては引き続き昭和48年度も継続検討中であり、特にこの冬は乾燥ときびしい低温に見舞われているため、この年の検討をまわって結論づけることが約束された。

昭和48年度落葉果樹関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要

農林省果樹試験場栽培部栽培第二研究室長 山崎利彦

昭和48年度における委託試験は除草剤4点（5件）、生育調節剤9点（19件）で、これら供試薬剤の試験成績検討と仮判定会議が49年1月31日（東京）に各場所の試験担当官の参集のもとに行なわれた。

結果の概略は次のとおりであった。

I 除草剤試験成績概要

昭和48年度 落葉果樹関係除草剤試験成績判定表

薬 剤 名	委 託 者	樹 種	品 種	判 定		使用法・検討事項
				前 回	今 回	
DPA・DCMU・MCP粒剤	石 原 産 業	ブドウ	デラウェア	継	継	若木に対する薬害抑草剤としての使い方
MON — 39 乳剤	日本モンサント	ブドウ	デラウェア キャンベル アーリー他	継	実	: 500ml/50~100l
					継	: 薬害を検討
SL — 29 乳剤	石 原 産 業	ブドウ	デラウェア	新 規	継 ?	
SL — 54 乳剤	石 原 産 業	ブドウ	デラウェア	新 規	継 ?	
DPA・DCMU・MCP粒剤	石 原 産 業	ナ シ	長十郎	継	継	

1. DPA・DCMU・MCP粒剤

(ブドウ)

試験担当場所：山梨果試，香川農試府中

春処理で5 kg/10 aの低濃度でも70日以上の発芽抑制力を有し，効果の発現はグラモキソンより遅れたが抑草期間は長かった。したがって，抑草効果に主眼を置いて使った方がよいとしている（府中）。しかし1年生苗に薬害がみられたので試験は継続試験として，①若樹についての薬害を検討し，②抑草剤としての使い方をさらに検討する。

(ニホンナシ)

試験担当場所：茨城園試

一県において検討されただけであったが，8 kg/10 aでは抑草効果はよかったが5 kgではやや不足であった。試験は継続として，①さらに効果を確認することになった。

2. MON-39乳剤

(ブドウ)

試験担当場所：果試安芸津支場，山梨果試，石川砂丘地農試，愛媛果試

DPA・DCMU・MCPと同様に殺草効果

のあらわれ方はグラモキソンより遅かったが，500 ml/10 aの使用で草は完全に枯死し，45日以上効果が認められ，グラモキソンよりも持続効果が長かった。すべての草種によく効き，ブドウに対する悪影響は認められなかった。草は完全に枯死するので，草生栽培園では問題であろう。なお250 ml/10 aでは効果が劣るようであり，実用化濃度は500 mlの薬剤を50～100 lの水に溶解して用いる。継続試験事項としては，ブドウ樹に対する薬害をさらに検討することになった。

3. SL-29およびSL-54乳剤

(ブドウ)

試験担当場所：山梨果試

SL-29の効果はカーメックス-Dより劣り，ヒメジョーンに対する効果は十分でなかった。SL-54も効果はカーメックスより僅かに劣ったが，高濃度ではヒメジョーン以外の雑草に対して抑制力が大きであった。

Ⅱ 生育調節剤試験成績概要

昭和48年度 生育調節剤試験成績判定表

薬 剤 名	委 託 者	樹 種	品 種	試験目的	判 定		使用法および継続検討事項
					前 回	今 回	
ベンジルアミノプリン (BA)液剤 (ベンジルアデニン)	味の素 クミアイ化学工業	ブドウ	巨 峰	花振い防止	新 規 (デラ実)	継	効果の確認 使用時期と濃度
FC-907 液剤 (リラボン)	FC-907 研究会 藤沢薬品工業， 他	ブドウ	巨 峰	花振い防止	実 継	実	1.露地に限定する 2.処理時期は8～9枚展葉期 3.500～750 ppm 4.処理が早すぎないこと
ジベレリン(GA) 水溶液	協和醗酵工業	ブドウ	ヒロハン ブルグ	成熟促進	継	実 ・ 継	1.満開10～15日に50～ 100 ppm 2.濃度の決定 3.散布処理の可能性

薬 剤 名	委 託 者	樹 種	品 種	試験目的	判 定		使用法および継続検討事項
					前 回	今 回	
ジベレリン+ アトロックス-BI	日本ジベレリン 研究会 協和醸酵工業, 他	ブドウ	デラウェア	GAの 吸収促進 散布の実用 化	継	実 ・ 継	1. 満開約10日後 2. 75~100ppm〔水量 80~100l/10a〕 1. BIを加える条件 2. サビと気象の関連 3. 散布器具との関係
同 上	同 上	同 上	同 上	耐雨と展着 効果	新	実	1. BI濃度は0.3~0.5% 2. サビ発生ひどい条件下では 濃度を低くする 3. 前処理にのみ応用する 4. 4~5時間後に降雨の場合 はGA単独処理 5. 果房の伸長がやや抑制され ることあり
パラフィン (キクノール)乳剤	三 和 産 業	同 上	同 上	展着効果	新	継 ?	効果劣る
PPK-30水溶剤	エ ー ザ イ	同 上	同 上	成熟促進 糖度上昇	新	中 止	
ACP-68-250 液 剤 (エスレル)	2,4-D協議会	ナ シ	各 品 種	成熟促進	新	実 ・ 継	廿世紀に準ずる 品種別の使用法検討
"	"	カ キ	富 有	"	実 継	実 ・ 継	1. 20~30ppm 2. 着色はじめに散布 3. 成木200l, 幼木150 l/10a 1. 品質低下の防止 2. 濃度と散布量の規定
"	"	"	平 核 無	"	継	継	1. 散布液量の規定 2. 収穫時期の検討
"	"	モ モ	白 鳳	"	新	継	各品種で検討する
"	"	オウトウ	ナポレオン	"	新	継	1. 効果の確認 2. 実割れと収穫後の日持ち
"	"	ウ メ	白加賀, 他	"	新	中 止	
NB-18 (メチオニン)水溶剤	日 本 曹 達	ナ シ	廿 世 紀	成熟促進	継 ?	継 ?	効果不十分
"	"	カ キ	富 有	"	継	継 ?	"

薬 剤 名	委 託 者	樹 種	品 種	試験目的	判 定		使用法および継続検討事項
					前 回	今 回	
ACP-68-250 液 剤 (エスレル)	2.4-D協議会	カ キ	富 有	摘果(摘蕾)		実・ 継	1.50ppm 2.満開後10日散布 1.気象、樹勢などの条件と摘 果効果の関係 2.散布は10日前後で検討
ジベレリン(GA) 水溶剤	協和醗酵工業	カ キ	富 有	落果防止	実 継	実	1.満開10日後、200ppm 2.火山灰土壌、単植園で効果 が期待できる
G・H・S 水溶剤 (ハイスィート)	日 本 技 研	モ モ	早生品種	糖度上昇	新	継 ?	効果不十分

1. ベンジルアミノブリン(BA)液剤による 花振り防止

ブドウ(巨峰)

試験担当場所：茨城園試、栃木農試、長野園試、長野農試桔梗ヶ原、山梨果試、福岡園試、(石川農試)

濃度は50～200ppmで検討され、山梨果試では有効果粒数の増加、果房重の増加が認められ、100ppmが安定した効果を示したとしている。他の地域では、果粒数の増加がみられた場合とそうでない場合(栃木)があり、効果が認められた場合でも、それは無核果の増加であり肥大が十分でなかった。継続と判定され、さらに効果を確認することになった。

2. FC-907液剤による花振り防止

ブドウ(巨峰)

試験担当場所：茨城園試、栃木農試、神奈川園試、長野農試桔梗ヶ原、山梨果試、鳥取果試(長野園試、石川農試、福井園芸センター)

効果が認められた場合と(栃木、福井、鳥取、長野)そうでない場合があった(山梨、神奈川)。効果が認められなかったのは、枝の伸長が少なく、樹勢が落着いていたためと(山梨)、生長抑制効果はB-9に匹敵したが無処理区の着粒

数も多かったので効果が認められなかったためと考えられる(神奈川)。

このようにFC-907はB-9より花振り防止効果はやゝ低かったが、大面積栽培では着粒過剰がかえって不利な場合もあるので、使い方によっては有利な場合もあるといわれる。

実用と判定され、実用化の方法は、①露地に限定する。②処理時期は8～9枚展葉時、③濃度は500～750ppm、④処理時期は早すぎないこと。

3. ジベレリン(GA)水溶剤による果粒肥大 ブドウ(ヒロハングルグ)

試験担当場所：岡山農試

果粒重、果房重ともに増加したが熟期の促進効果は不明瞭、実継と判定され、実用化の方法として、①満開後10～15日浸漬、②濃度は50～100ppm。また継続検討事項は、①濃度の検討と、②散布処理の可能性を検討することになった。

4. GA+アトロックスーB1の散布処理試験 ブドウ(デラウェア)

試験担当場所：山形園試、同砂丘分場、長野農試桔梗ヶ原、山梨果試、石川砂丘地農試、大阪農技センター

アトロックスーB I の効果……山梨果試ではこれを添加することによって果粒の肥大が促進されたが、その他の場所ではアトロックスーB I の良い効果は認められず、粒重の減少とサビの増加が認められた果が多かった。

G A の濃度……5 0 p p m でも散布効果は認められたが安全性を考慮して7 5 p p m の方がよいとする果が多かった。

以上の結果と今までの成績を総合的に判断して実証と判定され、実用化の方法としては、①満開約1 0 日後散布。②濃度は7 5 ～1 0 0 p p m, ③水量1 0 アール当り8 0 ～1 0 0 l, 但、開花前処理は従来通り。また、継続検討事項は、①アトロックスーB I を加へるべき条件。②サビの発生と気象条件の関連。③散布器具のえらび方などであった。

5. ジベレリン+アトロックスーB I による

耐雨および展着効果の体系化試験

ブドウ(デラウェア)

試験担当場所：山形園試、長野農試桔梗ヶ原
山梨果試

アトロックスーB I の添加効果とG A 濃度の影響を個々に解析することは困難であったが、悪天候の条件を考慮にいて、B I を添加すればG A は7 5 p p m にできるとしている報告例が多い。実用と判定され、方法は次の通りである。①アトロックスーB I 濃度は0.3～0.5%。②サビが発生しやすい条件下では濃度を低くする。③前処理のみ。④4～5 時間後に降雨があった時はG A 単独処理を行なう。⑤果房の伸長はやや抑制される傾向がある。

6. パラフィン(キクノール)乳剤によるG A

の耐雨性増加

ブドウ(デラウェア)

試験担当場所：山形園試、山梨果試

アトロックスーB I に比較して効果が劣った。判定は継?で中止の方向とされた。

7. P P K-3 0 水溶剤による糖度上昇

ブドウ(デラウェア、他)、ニホンナシ(廿世紀)、カキ(平無核)、その他

試験担当場所：栃木農試、山梨果試、島根農試浜田、(果試安芸津、青森畑園試、山形園試、福島園試、長野園試、長野農試桔梗ヶ原、石川砂丘地農試、鳥取果試、岡山農試、香川農試府中、福岡園試、新潟農試佐渡)

ブドウでは主としてデラウェアが供試されたが糖度の上昇はほとんど認められなかった。また他の数品種についても結果は同様であった。ナシでは廿世紀の着色はよくなり、果面の仕上がりが美麗であったと報告されたが(鳥取)、他の果樹ではブドウと同じく効果が認められず、中止と判定された。

8. A C P-6 8-2 5 0 エスレル液剤による熟期促進

ナシ(青ナシ、赤ナシ)

試験担当場所：神奈川園試、福井園芸センター、鳥取果試、福岡園試、茨城園試、栃木農試千葉農試、愛知農総試園研、(富山農試魚津)

エスレル散布によって長十郎は3～7 日早まり、例外として栃木において効果がみられない場合もあったが、これは乾ばつによるものと考えられた。果実の肥大は変化が認められないが、いくらか小果になることもあり、一部に裂果がみられた。果実の肥大抑制は熟期が早まった分の期間の肥大に見合う分に相当した。濃度は、5 0 と1 0 0 p p m の間で差がみられ、1 0 0 と2 0 0 p p m 間ではほとんど差が認められなかった。散布時期は、満開後1 1 0 日前後がよく、1 2 0 日では効果が少なかった。

早生廿世紀の熟期は5～1 0 日早まった。果

実の肥大はよかった（福井）。濃度は、50～100ppmが適当と考えられ、散布時期は早いほど落果が多かった。散布時期は県によって多少異なったが、満開後90～105日の範囲内と考えられた。

その他の品種は八雲、新世紀、新水、幸水、豊水、旭で試験が行なわれ、豊水は約2週間、幸水で1週間、新水では7～13日熟期が早まり、果実の肥大は変化がないが、やゝ促進された。散布濃度は50～100ppmで散布時期は品種の熟期によって異なるが、八雲で満開後95日、新世紀で100日ごろであった。

実継と判定され、使用法は廿世紀に準ずるものとし、品種別の使用法については引き続き検討することになった。

カキ（富有）

試験担当場所：岐阜農試、和歌山果試紀北、福岡園試（茨城園試、神奈川園試、香川農試府中、徳島果試上坂）

どの県でも効果が顕著で、着色ははじめ期に、30～50ppmを散布することによって、最低で1週間、最高で約3週間熟期が促進された。果実の肥大は変化がないが、やゝ促進される傾向があり、問題点は軟熟果の出現と、時によりヘタスキが増加することであった。またスプリンクラー散布の場合は25ppmの濃度がよかった。

実継と判定され、使用法は、①濃度は20～30ppm。②着色ははじめ期散布。③散布量は成木で200l、幼木で150l程度とする。これはしたたり落ちない程度である。

継続検討事項として、①品質の低下を防ぐ。②濃度と散布量をより詳しく規定することがあげられた。

カキ（平核無）

試験担当場所：山形園試砂丘、新潟農試佐渡和歌山果試紀北、（果試安芸津）

10～20ppmを散布することによって約1週間程度熟期が早まり、果実は大きくなった。しかしエスレル散布区の果実はアルコール脱渋に不向きであり、炭酸ガス脱渋でも脱渋後に軟化が早い傾向にあった。継続と判定され、①散布液量。②収穫時期の検討が必要と認められた。

モモ（白鳳、大久保）

試験担当場所：福島園試、神奈川園試、山梨果試。（岡山農試）

25～50ppmの散布によって2～5日熟期が早まった。適正濃度は25ppm前後と考えられ、満開後70～75日に散布があるようである。山梨果試では、松森早生を供試したが顕著な効果は認められなかった。

ウメ（白加賀、他）

試験担当場所：群馬園試、福井園芸センター（徳島果試上坂）

白加賀、鶯宿、紅サシなどの品種が供試されたが、どの品種も落果がはげしく、果実は肥大せず散布の意義はまったく認められなかった。ウメは本来成熟させて収穫するものではないうえに、この散布時期は生理的落果の時期に相当しており、エスレルはこの生理的落果を促進する方向に働いたものと考えられる。

オウトウ（ナボレオン）

試験担当場所：青森畑園試、山形園試、福島園試

熟期は3～7日早まった。50ppm前後が最適濃度であり、散布時期は各県一致して収穫3週間前が最適であった。オウトウの熟期は5日ぐらい促進できれば非常に有利であり、継続と判定され、実われと収穫後の日時が検討事項とされた。

9. NB-18 (メチオニン) 水溶剤による

熟期促進

ナシ (廿世紀)

試験担当場所：福島園試，鳥取果試，福岡園試

効果が認められた場合と (鳥取，福岡など)，認められない場合があった (福島など)。効果が認められた場合もエスレルより劣り，時により果実の肥大が抑制された。新世紀でも3～4日の熟期促進効果が認められたがユズ肌が発生した (福岡)。判定は継?で理由は効果が不十分なためであった。

カキ (富有)

試験担当場所：神奈川園試，富山農試魚津，和歌山果試紀北，(果試安芸津)

1000～2000ppmで2～7日の促進効果が認められたが，効果の変異が非常に大きくエスレルより効果が劣った。継?と判定され，理由は効果が不十分なためであった。

10. ACP-68-250 (エスレル) 液剤による摘果 (摘蕾)

カキ (富有)

試験担当場所：神奈川園試，岐阜農試，和歌山果試

満開前10～15日の散布で50～75ppmの濃度はよい摘果効果が認められたが，福岡だ

けは6～12日前の100ppmがよかった。

実用濃度は50ppm前後と考えられるが，気温や樹勢によって効果に変異がみられた。判定は実継で，使用法は，①濃度50ppm。②散布時期は満開後10日。継続検討事項は，①気象，樹勢などによる効果の変異の解析。②散布時期をさらに確めるなどであった。

11. ジベレリン (GA) 液剤による落果防止

カキ (富有)

試験担当場所：和歌山果試紀北，鳥取果試，福岡園試

どの場所でも効果が認められたが，果実はやや小さくなる傾向がみられた (鳥取，福岡)。これは実用上問題ではあるが，仕上げ摘果によって補えるとしている。実用と判定され，使用法は次のようにきめられた。①満開10日後の散布で，濃度は200ppm。②火山灰土壌や単植園で効果が期待できる。

12. G・H・S水溶剤による糖度の増加

モモ (早生品種)

試験担当場所：福島園試，富山農試魚津，愛知農総試園研，香川農試府中，愛媛果試，(山形園試砂丘)

いくらか効果があるとみられたのは愛媛の布目早生だけであった。継?と判定された。

昭和48年度カンキツ関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要

農林省果樹試験場興津支場栽培研究室長 広瀬和栄

昭和48年度カンキツ関係除草剤・生育調節剤試験成績の検討会を東京 (日本都市センター)